

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和5年(2023) 3月 24日

学) 徳山中央幼稚園

1. 本園の教育目標

望む子ども像 異質なものを受け入れつつ 自己を表現できる子ども
教育目標 対話的人格形成

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

質の高い教育を目指し 地域の子育てセンターとしての役割を果たす

自分づくりの教育課程を、年次教育研究計画に基づき実践と分析を継続し、子どもの発達理解と教師自身の指導を通して向上させ、環境を通して行う教育の意味と保護者説明力を磨く

3 項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	質向上の一つとしての教育実践の研究の継続化と探究	A	子どもの面白さを発見し、教師と共に創る環境構成再構成を通して、自己内対話を促す
2	保護者の願いと園の願いの同意と相違を付け合わせ、方向を見いだせたか	A	日々の子どもの姿の意味を、写真付での学級新聞配布で行い、それをきっかけにし、話を交わせた。
3	公開保育に取り組み、幼小接続の意味を深めた	A	市内全域の小幼認保へ案内をし、山大付属1年生の先生を講師として招き、参加者との意見交換を行った。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	子どもの姿と先生の思いとの接点を追求しつつ、研究の視点で継続できた

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	研究方途の深まり	子どもの面白がる姿を拾い、如何に構成したらよいのかを各先生毎に追求する。と同時に、研究を毎月まとめ、実践的な深まりを共有している
2	安全管理	防災訓練を基本に、問題点と成果点を整理しつつ安全と安心を確保する
3	幼小接続	既存のつながりを基盤に、接続の1つの結果である。スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムを、近隣の小学校と検討し続ける

6. 学校関係者評価委員会の評価

委員の方々が、保護者アンケートを読まれ、多様な意見の表出がなされていることを評価された。それは、安心して園に対して意見表明をしてもよい雰囲気形成につとめ、聴き合う関係づくりを大切にしているからこそその意見だという見方のあることも示して頂いた。又、公開保育の取り組みや40年の研究の継続が、子どもの自主性から発したあそびの学習の意味を深めることや、そこに関わる指導の質を高めることになり全体としての保育の質が高まることにつながっていることも受け止めて頂くことができた。